

仙術日待種

全

7多9
1586



門ヲ翁
指 1586
卷



仙祕日待種

二津三川まじりて夜ハ海一山うす明ぬ
 と白ふらうも色出ると早東雲かた打
 杉は海まきまら窓およ者まり公後紅
 顔大笑しそこの沸くは秀は是厄排
 が中尊八千景の親仁同歩しひの上解く
 園はやぬまの諺も笑し門中の福来る
 是程かきしそ何をら笑人博物秀才の
 笑ハまじりまぬりし譚小珠は唯丸く

出る大笑が不をのあまのついでに種を借し
 持て来る一巻をとうやく取らる事仙術秘
 の精研は既の雲裏に入奇妙は是独の樂
 とすべし童を感せんおのほく眠事さ海の時
 と解して花の安ふ常は春の年五のま
 松の甲推ぬ

花山人撰

天明四の立春



仙術日中ち種

目録

- 一 糸を通したる種とぬ
- 一 好とえろの内と文字を標甲出る
- 一 暮石人ぬる種
- 一 心の内へ文字或ハ繪とあしす
- 一 十二の石と人の年と出る
- 一 板の書たる文字と忽ぬ
- 一 神変奇特の種

一 石の墓石の形と書く術

一 大の中より鶴と出た術

一 蜘蛛の骨牌

一 ことしに大とほる術

一 左右のより鏡と鏡に術

一 挿るもの鏡とかくす術

一 多の上に文字と浮る術

一 一寸の穴より一尺の怪物を出た術

一 酒中花のよりと術

一 千載曆

一 だんごの風取の占

一 口より智慧れ術

一 大甲神壽の系

一 紙と切りとちゅうと出た術

一 糸のよに二重とまきた術

一 人かきと影のは術

一 一のびは煙の術

一 犬のぬきとたちまら止むる術



一や三の取子文多とありては
 一書の取子と出たは
 仙柳日待とて同録終

○ 奇 不
 奇 不
 奇 不

智 惠 杖 山

三 卷

近 刻

凡 任 菟 撰

○ 古 今
 奇 譚

凡 狂 夜 話

五 卷

近 刻

同 撰

け書ハ日中ら藤小とてしるわらうわき
 まはま細きとの世うとの筆のしもぐ
 のでんしもを致は
 いししししししししししししししししし
 あらうとらとてししししししししししし





碁石十二と人十二と人の年の数なりと
さもけりの石とまて何の年とあると申る人ハ
その内はくまを申るたよハ三十二に解人
大十二の石と年とけり申は巴里州とくまの石と
まて何に二つ加へ六つにしと年とまてくまを
く辰(巳)午未申酉酉の年とあるとい
はゆりも二つ入てくまを

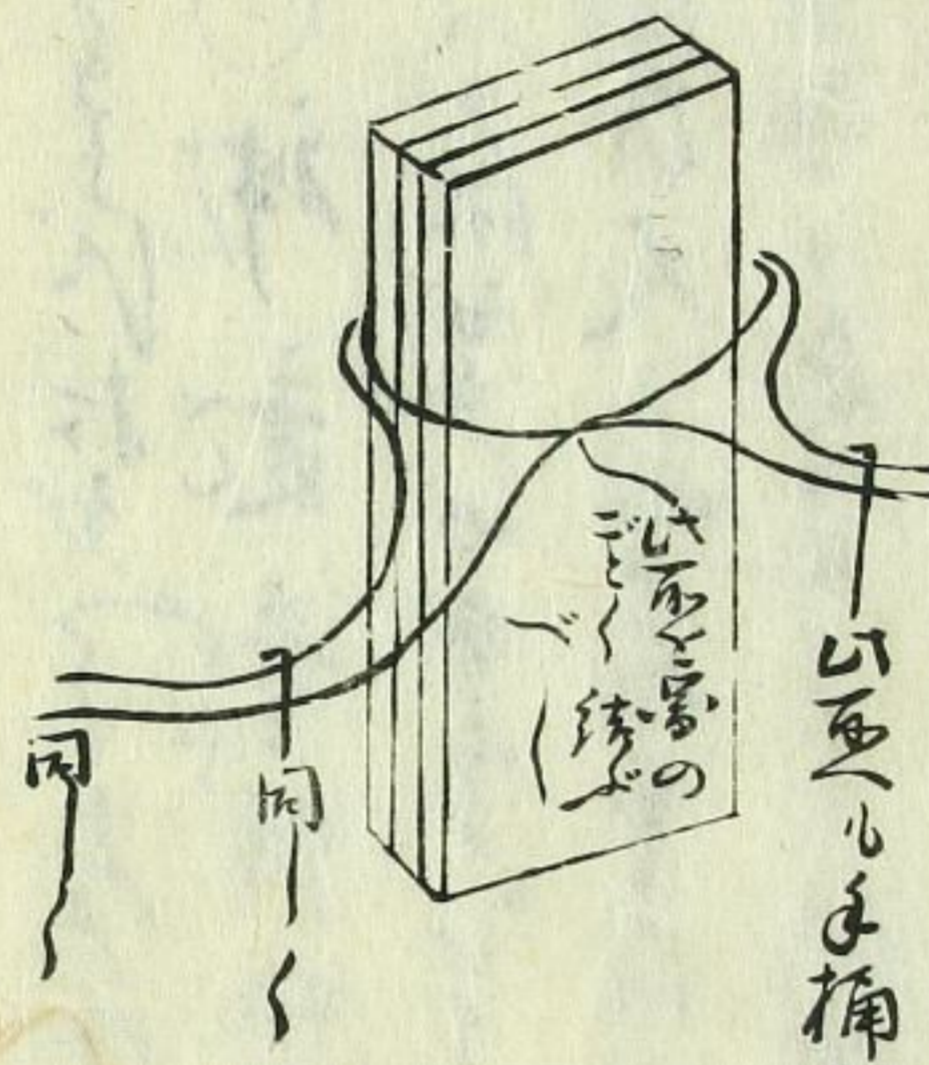
○板に書たる文をたちすらしめく解
繪をも字にも板かき人の石と解りかぬとい

何ハハの石にぬく人ハまをすらしめく
くまをいへ凡の思入てまてくまをいへ
くまをいへおつてまて調法く

○神変奇特の鏡

鏡ハ解きの中へいへくまをいへくまの毛に
て鏡ハ人ハまてあつたあつたからくまをいへ
鏡とくまのいへくまをいへくまの毛に
くまをいへくまのいへくまの毛に
くまをいへくまのいへくまの毛に
くまをいへくまのいへくまの毛に

いづれに... 箱の中... 後の出



いづれに... 後の出... 人の...

いづれに... 後の出... 人の...

○一はきの石を当らぬ

其石を... 後の出... 人の... 石を...

家々中河のまじりと二十五づゝのサハチムルハ〜二ツサ
 止ハ三十と差ハ其ノ家々中河のまじりハ〜
 一と二十一ツの勘定ハ〜八十四と差ハ二ツサ
 一と〜中河のまじりハ〜七十の勘定ハ〜
 百四十九と差ハ〜二百四十九と差ハ〜
 一ツサの石の勘定ハ〜三ツサ合テ何百ハ
 十と〜百廿〜川百廿〜
 出〜基石の勘定ハ〜
先ハ十四の基石を以テ
 四ハ〜考之〜

○お中より鶴と出た所

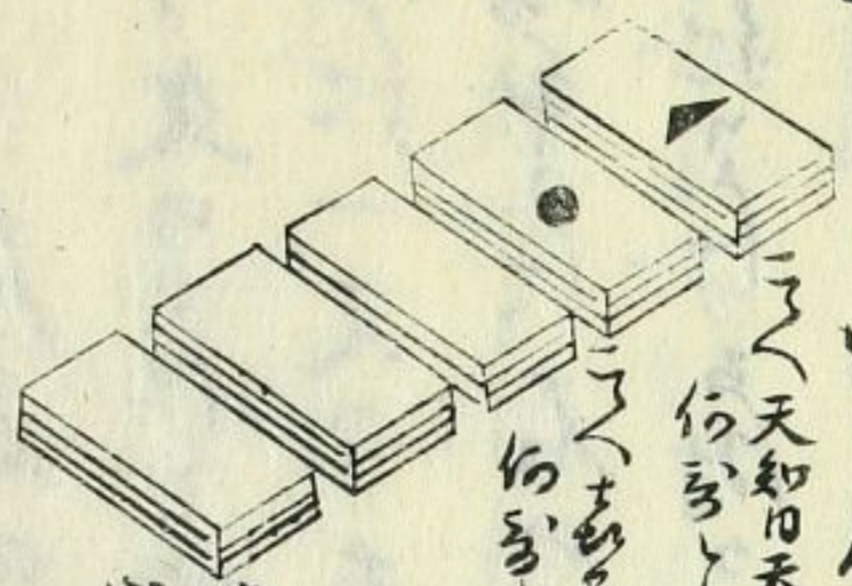
一ツサと〜主河のまじりハ〜
 一ツサの勘定ハ〜
 一ツサの勘定ハ〜
 一ツサの勘定ハ〜
 一ツサの勘定ハ〜
 一ツサの勘定ハ〜

○お中より鶴と出た所

一ツサの勘定ハ〜
 一ツサの勘定ハ〜
 一ツサの勘定ハ〜
 一ツサの勘定ハ〜
 一ツサの勘定ハ〜

むれく〜た〜バ〜毒をなと落しぬとほの事とを
 定めたるははり〜天智天皇の事と出〜事〜
 とも並〜ちのち〜事と〜何ぞ下の一枚と又
 定〜事〜ま〜の事と字法をま〜人の事との
 事と〜ははと表せん法紙の事と出〜事〜と
 く〜事〜事〜に事と事と〜のち天智天皇
 の事と〜事〜の事〜事〜事〜事〜
 事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜
 事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜

い〜事〜事〜事〜事〜



天智天皇の事と出〜事〜事〜事〜
 天智天皇の事と出〜事〜事〜事〜
 天智天皇の事と出〜事〜事〜事〜
 天智天皇の事と出〜事〜事〜事〜
 天智天皇の事と出〜事〜事〜事〜
 天智天皇の事と出〜事〜事〜事〜
 天智天皇の事と出〜事〜事〜事〜
 天智天皇の事と出〜事〜事〜事〜

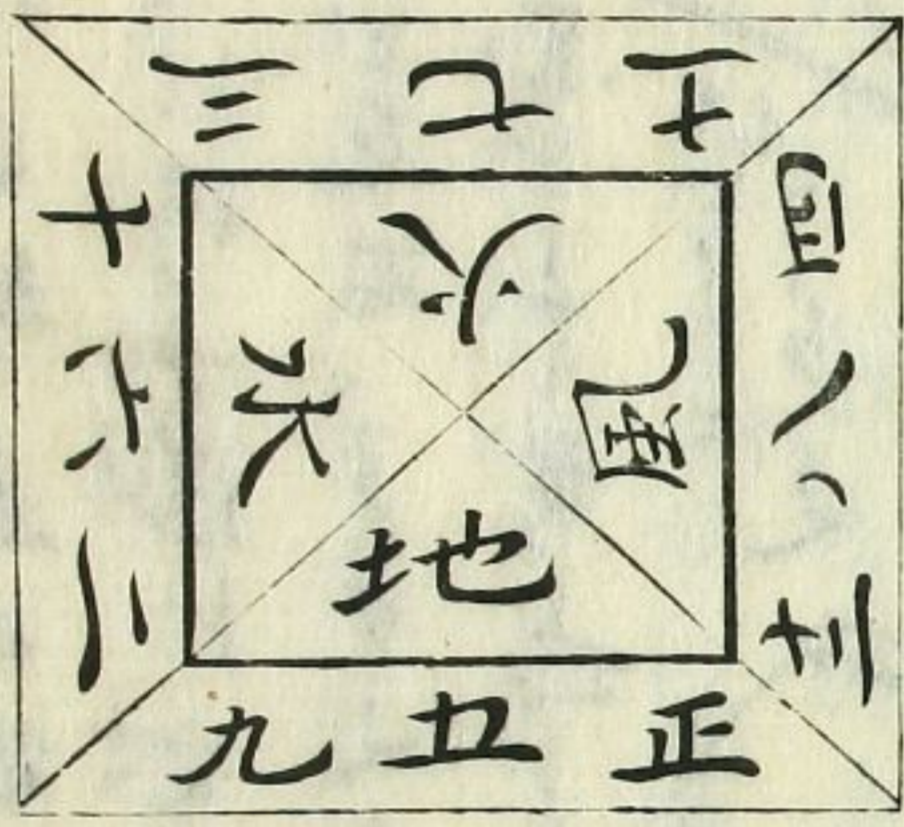
○〜事〜事〜事〜事〜

〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜

思ふ事なるといふは、^いかゝるも辨りつたことのみ
 分るべき事とて、^いかゝるも上へ分るべし、^いかゝるも
 王子のついでに侍る、^いかゝるも年々の歳とて、^いかゝるも
 の辨りき、^いかゝるも右のこゝろ、^いかゝるも大山に随て下
 へ下り、^いかゝるも二日、^いかゝるも八月、^いかゝるも四月、^いかゝるも
 まじり又元のすゝ子のあゝ、^いかゝるも上へ
 人の事とて、^いかゝるも其年の事とて、^いかゝるも上へ、^いかゝるも
 今一、^いかゝるも三十一の卯のこゝろ、^いかゝるも三十一
 へ、^いかゝるも三十一の酉の年、^いかゝるも金世とて、^いかゝるも是も

上へ、^いかゝるも又上の八月、^いかゝるもおまの事とて、^いかゝるも
 順に、^いかゝるも

○たんに、^いかゝるも風雨のこゝろ



正月、^いかゝるも正の事とて、^いかゝるも
 と定ちて、^いかゝるも
 た、^いかゝるも二日の事とて、^いかゝるも
 ま、^いかゝるも
 西に、^いかゝるも
 かく、^いかゝるも

びびりたがくさくさな赤くはくはくしたまを人に
 ちんちんをきりしりやを片カチの赤とよく
 コハテノカリエウがくくくくくくくくくくくく
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 思ひしにこをよむしんちんちんちんちんちんちん
 ろのまハセのまはたあるとたがくくくくくくくく
 ちんちん

○慈あんどくの術

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

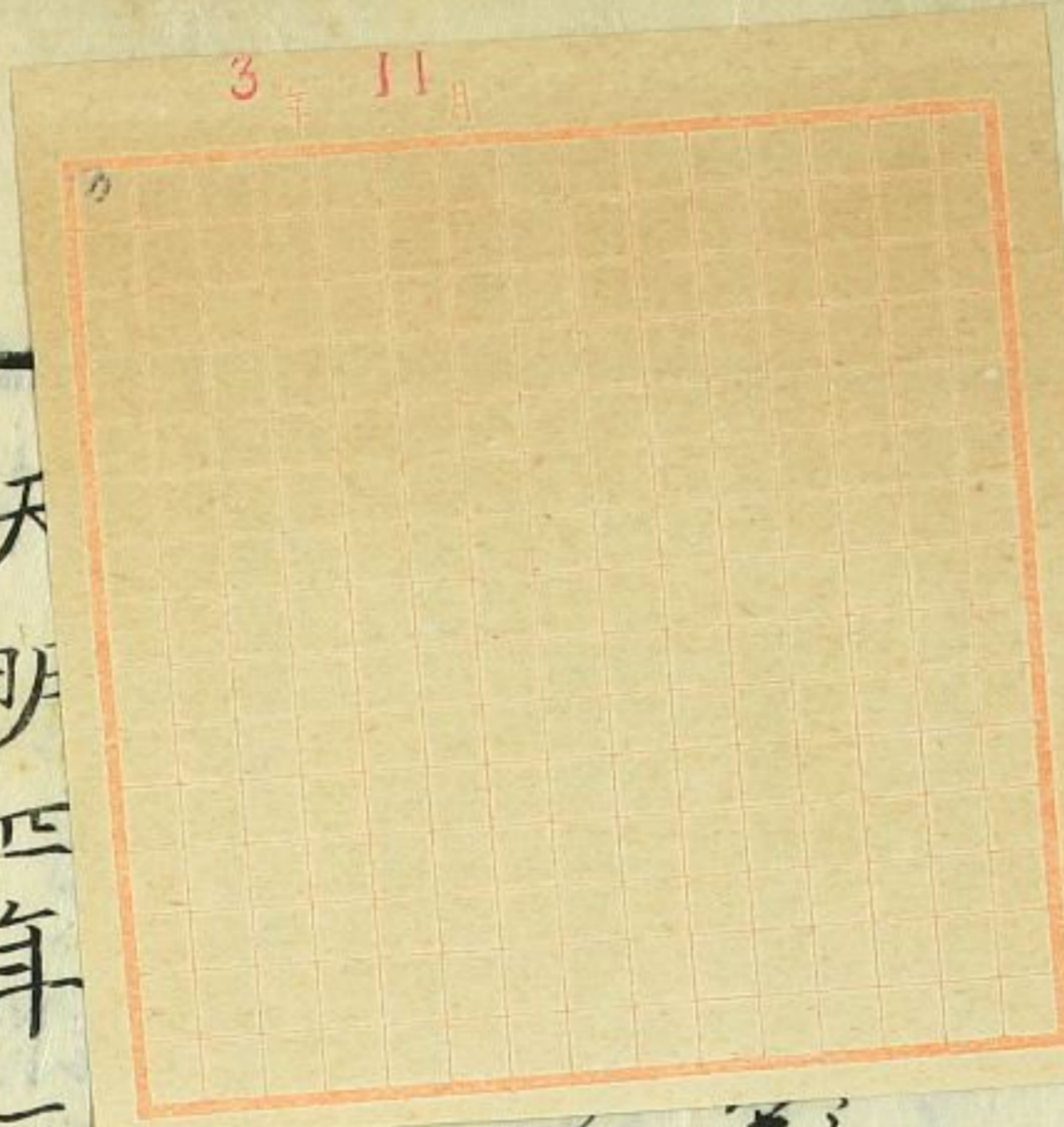
口に一丈おちばをぬきこくくくくくくくくくくくく
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

○犬のちんちんとちんちんちんちんちんちんちん

右のまのちんちんとぬきこくくくくくくくくくくくく
 南無三棟大権次アヒラウニケニ
 と三交とぬきこくくくくくくくくくくくくくくくく
 犬のちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

○かこのちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん



3 11

小く好ううけて懐中一巻と扱てふき更入
只今字を書らるゝは寸巻と寸角信紙と云ふ

とと出た形

とくも糸につらきふき更入

和傳の巻終

天明四年辰正月

東睿山下竹界花屋又二郎

高貴性来

古状採釋

高貴性来

和漢年代廣記

長雄高貴性来

文政元戌寅年仲夏吉日

江戸書物問屋

今川高貴性来

今川高貴性来

今川高貴性来

今川高貴性来

今川高貴性来

今川高貴性来

今川高貴性来

今川高貴性来

今川高貴性来

今川高貴性来

今川高貴性来

今川高貴性来

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

鼠一寸案文

北島長四郎

山田佐助

前川六右衛門

日中橋町

新田町

小く好ううけて懐中一巻を扱てふき更入
 只今字を書りてふすかゞ子内信紙とて
 出—三子—
 〇高の束をきと出は形

〇高の束をきと出は形
 〇高の束をきと出は形
 〇高の束をきと出は形

仙術日きらき杯傳の巻終

天明四年辰正月

東睿山下竹罌花屋又二郎

古状採種釋

今川を習状と知りて
今く種釈とつて
ありらき書り

一尺一寸案文

世に名傳とありて
又案を白くつりて

高貴性来

先生代の板のめ
中は去別を辨
丹精と書られし

女子一寸案文

女子年々入用乃
りし去初後の流
皆を法をいれ用

和漢年代廣記

和漢年代とわ
して初をよ
女と書り

懷中案文

月一の文と
事とらくの
引出子初受の用文

長雄高貴性来

耕をえし者
あは生骨肉
書と書り

和年圍雲五抄

たにけこの
出うて自然
極秘の懐中

文政元戌寅年仲夏吉日

前川六左衛門

江戸書物問屋

北島長四郎
山田佐助

